

命題 0.1: 変分法の基本原理

任意の状態ベクトル $|\psi\rangle$ に対して以下の不等式が成り立つ.

$$E(\psi) = \frac{\langle\psi|\hat{H}|\psi\rangle}{\langle\psi|\psi\rangle} \geq E_0$$

証明 任意の状態ベクトル $|\psi\rangle$ を

$$|\psi\rangle = \sum_k c_k |k\rangle$$

と展開する. 左から $\langle k'|$ を作用させると

$$\langle k'|\psi\rangle = \sum_k c_k \langle k'|k\rangle = \sum_k c_k \delta_{k',k} = c_{k'}$$

を得る. これは任意の k に対して成り立つので式 (??) は以下のように変形できる.

$$\begin{aligned} |\psi\rangle &= \sum_k \langle k|\psi\rangle |k\rangle \\ &= \sum_k |k\rangle \langle k|\psi\rangle \end{aligned}$$

これを用いて式 (??) の分母を以下のように変形する.

$$\begin{aligned} \langle\psi|\hat{H}|\psi\rangle &= \langle\psi|\hat{H} \sum_k |k\rangle \langle k|\psi\rangle \\ &= \sum_k \langle\psi|\hat{H}|k\rangle \langle k|\psi\rangle \\ &= \sum_k E_k \langle\psi|k\rangle \langle k|\psi\rangle \\ &= \sum_k E_k |\langle k|\psi\rangle|^2 \end{aligned}$$

また,

$$\langle\psi|\psi\rangle = \sum_k |\langle k|\psi\rangle|^2$$

であるので,

$$E(\psi) = \frac{\langle\psi|\hat{H}|\psi\rangle}{\langle\psi|\psi\rangle} = \frac{\sum_k E_k |\langle k|\psi\rangle|^2}{\sum_k |\langle k|\psi\rangle|^2} \geq \frac{\sum_k E_0 |\langle k|\psi\rangle|^2}{\sum_k |\langle k|\psi\rangle|^2} = E_0$$

が示される. □

式 (??) よりあらゆる状態ベクトル $|\psi\rangle$ のエネルギーは基底エネルギー E_0 以上である. 変分法は,

1. 試行関数 $|\psi\rangle$ をたくさん用意し,
2. それぞれのエネルギー $E(\psi)$ を計算し,
3. その中で最小の $E(\psi)$ を E_0 の近似解とする

近似法である.

例 0.1

ポテンシャル $V(x) = \lambda x^4$ 中に粒子がある系を考える。この系の Hamiltonian は

$$\hat{H} = -\frac{\hbar^2}{2m} \frac{d^2}{dx^2} + \lambda x^4$$

である。予想される基底状態が満たすべき条件は

- $x = 0$ で存在確率が最大
- $|x| \rightarrow \infty$ で存在確率が 0
- 節がない^a

である。この条件と変分法を用いて、エネルギーの近似値を求めよ。

^a節があると微係数が大きい点が存在し、これは運動エネルギーを大きくしてしまう。

試行関数として $\psi(x, \alpha) = e^{-\frac{\alpha x^2}{2}}$, $\alpha > 0$ を考える。式 (??) の右辺を計算すると、

$$\begin{aligned} E(\alpha) &= \frac{\int \psi^* \hat{H} \psi dx}{\int \psi^* \psi dx} \\ &= \frac{\hbar^2 \alpha}{4m} + \frac{3\lambda}{4\alpha^2} \end{aligned}$$

を得る。第 1 項は運動エネルギーを、第 2 項はポテンシャルエネルギーを、それぞれ表している^a。式 (??) の最小値が基底エネルギー E_0 の近似解である。よって、 $\frac{d}{d\alpha} E(\alpha_0) = 0$ となる α_0 を式 (??) に代入することで近似解、

$$E(\alpha_0) = \frac{3}{8} \left(\frac{6\hbar^4 \lambda}{m^2} \right)^{1/3}$$

を得る。

^aポテンシャルエネルギーの項は α が大きくなるほど小さくなる。これは、波動関数が狭まり $x = 0$ での存在確率が大きくなるためである。一方、運動エネルギーの項は α が大きくなるほど大きくなる。これは、不確定性関係 $\Delta x \Delta p \geq \frac{\hbar}{2}$ より、運動量のばらつきが大きくなるためである。